西条よっかいち へ東へ

安芸の **西国街道** を歩けば いにしえの **散策道**

散策地図

西国街道の歴史と西条

「西国街道」という名の江戸時代における山陽道の呼び名です。「西国」は京都を都と考えた場合の方角で、「街道」は大名や幕府が都を結ぶ幹線の大路でした。江戸時代になると脇街道とされ、その名も「西国街道」と呼ばれるようになりました。

「安芸の西条」では市町として栄わっていた四日市に新たに宿駅が設けられ、四日市経由の道として発展。これまで以上に大きな役割を果たすことになるのです。

古代から続く道

石器時代から人の営みが始まっており、五世紀には「ヲロ」と呼ばれる古墳が造られました。奈良時代から平安時代にかけては、律令国家の地方行政区画である「国」「郡」「郷」「里」が整備され、交通の要衝には「駅家」が置かれました。

四日市のまち

江戸時代になると、参勤交代や通の発展にともない、モノと文化の集散が多くなっていた四日市のまちは、毎月四の日に市が立つようになり西条地方の一大商業地へと発展していきました。

四日市御茶屋（本陣）

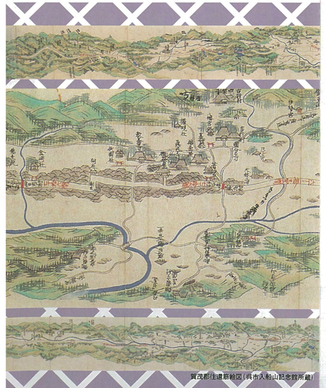
御茶屋は、藩主や幕府の役人が宿泊する施設で、「本陣」とも言います。「西国街道」や「山陽道」には、一四〇ヶ所ほどの御茶屋があったと言われています。

御茶屋は家老を利用するのが一般的でしたが、四日市の場合は、藩の直営で、御茶屋奉行が置かれていました。

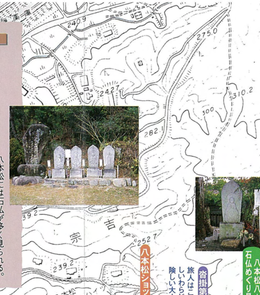
御茶屋は、幅広の土塀をめぐらした広大なものでした。通常、御茶屋は家老を利用するのが一般的でしたが、四日市の場合は、藩の直営で、御茶屋奉行が置かれていました。

四日市から西条へ

東広島市の発展



旧山陽道復興プロジェクト
東広島の巻

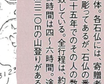


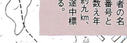
のしりスポット！

八本松 八十八 石仏めぐり

八本松には仏が多く祀られる。大正年間に一人の篤志家によって建てられた、四国八十八カ所になぞらえた「八十八番札所」。各石仏には、寄贈者の名前が刻まれており、「石仏の番号」と「大正一五年○○の人の○○歳大厄」などと刻まれている。

所要時間は、途中標高差二〇〇mの山登りがある。





のしりスポット！

西条米狩川 成層

約二十万年前、今の西条盆地は湖で、その周辺の山から流れ込んだ土砂が湖の底にたまり、土砂は固まって地層となりました。

西条盆地には、年間降水量が四〇〇mmと少ない、温暖な、また、花崗岩地帯であるなどの特徴があります。

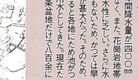
これらの特徴が、江戸時代に入ると各地にため池が造られ、灌漑用水としました。現在でも、西条盆地内には八四箇所のため池があります。

のしりスポット！

ため池

西条盆地には、年間降水量が四〇〇mmと少ない、温暖な、また、花崗岩地帯であるなどの特徴があります。

これらの特徴が、江戸時代に入ると各地にため池が造られ、灌漑用水としました。現在でも、西条盆地内には八四箇所のため池があります。



のしりスポット！

吉井の清水

のしりスポット！

吉井の清水

道を知る 町を知る 歴史を知る 味わいと情緒あふれる散策空間

古代の山陽道想定路

酒の香りにさそわれて…。酒蔵めぐり

鏡山城跡

周防大内氏の拠点であった山城。大内義興が中央の政治の場で活躍した1508年（永正5年）、南の守護代・陶氏の攻撃により落城。拠点は西の鏡山城へと移った。国指定史跡。

三ツ城古墳

西条盆地のほぼ中央の丘陵にある、前方後円墳の大型古墳。墳丘は3段築成で、全長九二（約92m）に達する五世紀中頃の築造。国指定史跡。

社倉のはたらき

社倉は農民の互助制度として江戸時代に広まった。村人から集めた米を貸出しし貯蔵する。これは飢饉のおり、村内の困窮者の九月の救済である。貸した米は、翌年二月～三月の春に二割の利息をつけて返してもらう。この仕組みは、米一月～三月の春に二割の利息をつけて返してもらう。この仕組みは、米一粒も無駄にしないという農民の知恵でした。

西条酒三大恩人

三浦仙三郎（1850～1919）
軟水醸造法を開発して広島県の酒の質の向上に努め、生産を酒造界に導いた。

橋爪 陽（1873～1944）
醸造技術者。酒造組合連合会技師長。酒造組合連合会技師長。酒造組合連合会技師長